

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 3 月 21 日	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	川北 安奈

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
熊本サンクチュアリ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物福祉実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 3 月 15 日 ~ 平成 29 年 3 月 17 日 (3 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
熊本サンクチュアリ (平田聡所長、森村成樹副所長、山梨裕美氏)
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
<p>写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>今回の実習では熊本サンクチュアリを訪れ、飼育下のチンパンジーとボノボのエンリッチメントについて、装置の考案から評価までの一連を体験しながら学んだ。熊本サンクチュアリには医学感染実験での役目を終えた 58 人のチンパンジーと 6 人のボノボが暮らしている。野生のチンパンジーは離合集散の社会を形成すると言われているため、ここでは彼らの社会関係に配慮しながら日々部屋わけを変えたりして、飼育下でも「よりよい生」を送れるように工夫がなされている。</p> <p>エンリッチメントの種類は、感覚・採食・物理・認知・社会に関するものに大別される。今回は採食エンリッチメントとして、長時間楽しんでもらえる食事づくりに挑戦した。サンフランシスコから施設見学に来られた Natashaさんと、アジア・アフリカ地域研究科の横塚さん、霊長類研究所の Duncanさん (TA) と一緒に取り組んだ。まず一つ目は San Fran Special という名の食事で、ピーナツをブドウジュースに浮かべたものだ。チンパンジーたちが枝などの道具を使用して奥のピーナツを取るだろうと想定し、約 30 リットルの水と 7.5 リットルのブドウジュースで満たされた発泡スチロール箱の中に約 50 個のピーナツを投入した。二つ目は Hey Peanuts! という、圧縮した乾草の塊に約 15 ヶ所穴をあけてピーナツクリームを注入し、最後にピーナツでその穴を閉じたものを 2 つ作成した。2 つに対して約 500g のピーナツクリームを使用した。San Fran Special はチンパンジーの放飼場で鉄柵部分の場外に準備し、Hey Peanuts! はタワーの 3 階に約 3m の間隔をあけて 2 つを設置した。7 人のチンパンジー (男性 1 人、女性 6 人) が放飼場に入ってから 1 時間の間に各アイテムをどれだけ使用したか、時間を計測した。このとき各アイテムに関与した個体数は考慮していない。結果は、San Fran Special が 55 分 41 秒、Hey Peanuts! が 33 分 27 秒と 32 分 55 秒であった。全体の様子をドローンを使って撮影したが、チョコというチンパンジーがドローンに枝を投げあてる場面も観察された。</p> <p>http://www.wrc.kyoto-u.ac.jp/kumasan/en/news/1703/Chimpanzee-Bringing-Down-a-Drone.html</p> <p>ボノボに対しては San Fran Special のみを設置した。3 人のボノボを 30 分間観察し、そのうち 28 分 14 秒を彼らはこの食事に費やしていた。初めはピーナツを食べることに集中し、ピーナツを食べ終わると手を希釈ジュースに浸して音を立てながら飲んでいった。奥のピーナツを取る際に枝を使用することもあった。観察後にはこの San Fran Special を回収しなければならなかったが、そのときの彼らの必死さと回収後の落胆ぶりはとても印象的だった。発泡スチロール箱が引き裂かれ、ジュースが流れ出</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

てしまったのだ。その後の掃除が大変になってしまったのは想像に難くない。

エンリッチメント導入の際は、安全性や効果だけでなく、飼育の手間や予算も考慮しなければならないと学んだ。美味しいジュースは魅力的で彼らは喜ぶかもしれないが、それほど頻繁にできるものではないだろう。(今回は森村さんがブドウジュースを買ってくださった。) 彼らの健康面にも配慮して一度に与える量を決める必要がある。飼育担当者ができる範囲で飼育動物のエンリッチメントを工夫するのが、持続的な福祉向上につながると思う。

私は普段の研究で行動観察をおこなっているが、今回のように自分たちのアクションに対して相手のリアクションを見れるというのは新鮮で面白かった。



観察開始前にドローンが飛んでいる様子



チンパンジーの手に渡る前のドローン (左) と
彼らの手に渡った後のドローン (右)



チンパンジーのタワーに設置した Hey Peanuts!

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



ボノボのエンクロージャーに設置した
San Fran Special



集合写真

6. その他 (特記事項など)

本実習でお世話になりました平田先生、森村さん、山梨さん、David さん、実習参加者のみなさまに感謝いたします。ありがとうございました。